

追悼文

有吉林之助さんのご逝去を悼む

太宰府市市史資料室 重松 敏彦

2008年12月1日朝、有吉林之助さんご逝去の報を受けて、わたくしはしばし言葉を失いました。というのは、その1か月ほど前に有吉さんの元気なお姿に接したばかりだったからです。わたくしたち市史資料室では、市史編さん事業の過程で確認された市域所在の古文書群を広く市民に公開していくために、古文書原蔵者の方々に寄贈・寄託のお願いをして、それらを資料室において保存整理するという構想をもっていました。このほど、こうした資料の寄贈・寄託に関する法的整備がなされ、ようやく実現できるはこびとなったのです。これに基づいて、わたくしたちは寄贈をお願いする記念すべき第1号として、有吉さんからお預かりしていた古文書群を選んだのでした。

わたくしと市史資料室の藤田の二人で、有吉さんのお宅にお邪魔したのは11月5日のことでした。有吉さんは、わたくしたちの寄贈依頼の申し出にご快諾いただき、その場で寄贈承諾書に署名・捺印をしてくださいました。また、間もなく卒寿を迎えるとのことと、こうした卒寿とか米寿とか、ある特定の年齢を表す言い回しを調べているんですよ、と笑顔でおっしゃっていたのが印象的でした。そしてこれが、わたくしが有吉さんの生前のお姿を拝見した最後となってしまいました。

のちにお聞きしたところによりますと、その頃の有吉さんのご体調はかなり深刻な状態であったとのことでした。有吉さんと親しかったある方から、かなりきつかったのだろうが市史の人が来るというので対応されたのではないか、ということもお聞きして、本当に胸が詰まる思いでした。

顧みますと、『太宰府市史』の編さん事業が開始されたのは有吉さんが市長をお務めになっておられる時のことでした。有吉さんは太宰府市初代市長であります。太宰府に関する自治体史編さんの議が起こったのは有吉さんがまだ町長をされていた頃のことでした。当時の議会において、有吉さんは自治体史編さんのことは市制施行後にきちんと考えたいと答弁されていますが、その言葉どおり市制施行直後に、市史編さんに関する議論が始められたのです。実際に市史の刊行が始まったのは、次期市長の伊藤善佐さんの時ですが、有吉さんは市長ご退任後も市史編さん委員会委員として、のちには同委員会顧問として、市史編さん事業全体を本当に暖かい眼差しで絶えず見守ってくださいました。

またわたくしたちは、有吉さん自身のご生涯、そしてその太宰府との関わりも、『太宰府市史』にとっては記録として遺すべききわめて貴重なご体験である、と考えていました。そこでわたくしたちは、市史編集委員であった有馬学九州大学教授に依頼して有吉さんへの聞き取りを行っていただきました。その成果は、市史通史編Ⅲの叙述の随所に生かされています。さらにその聞き取りの全容を本誌『年報 太宰府学』創刊号（2007年3月）に「昭和戦後期の太宰府と政治一元太宰府市長有吉林之助氏談話速記録―（解説 有馬学）」として掲載させていただ

きましたところ、これを読まれた市民の方々から多くの情報が寄せられました。これもやはり、有吉さんのご人徳、また太宰府に寄せる思いの大きさを物語っているように感じられてなりませんでした。

今回、有吉さん、そしてそのご遺志を受け継がれましたご家族の皆様方の全面的なご協力のもと、有吉家文書目録を本号に掲載させていただくことになりました。このことは、これまで決して豊富とはいえなかった太宰府近代史研究の今後に、大きな光明をもたらすものと確信しています。謹んで、有吉さんの御霊前にお捧げしたいと存じます。そしてわたくしたちも、町長・市長ご在任中に積極的に自治体史編さんに取り組まれました有吉さんのご遺志を承けて、ここに太宰府というまちの豊かな歴史・文化を語り継いでいくことをお約束するとともに、衷心よりご冥福をお祈りいたします。



執務中の有吉氏



市制施行にともない新しい看板をかける有吉氏



市長を退任される有吉氏